



二十六聖人

日本二十六聖人殉教者



イエズスの聖フィリッポ

13. メキシコ生まれ。最初のメキシコ人聖人となり、メキシコシティの守護聖人。フランシスコ会修道士。サンフェリペ号で遭難して日本へ。十字架に付けられたときに、首の縄が締め窒息寸前だったため一番初めに処刑された。24歳。

日本二十六聖人殉教者



聖ゴンザレス・ガルシア

14、インド生まれ。16歳で来日し、司祭のもとで伝道士として働く。その後フィリピンでフランシスコ会修道士に。パウチスタ神父と共に再び日本へ。死に臨んで皆に悔悛と改宗を説いた。40歳。

巻頭言：開かれた主のお墓の前で

安息日が終わると、マグダラのマリア、ヤコブの母マリア、サロメは、イエスに油を塗りに行くために香料を買った。そして、週の初めの日の朝ごく早く、日が出るとすぐ墓に行った。彼女たちは、「だれが墓の入り口からあの石を転がしてくれるでしょうか」と話し合っていた。ところが、目を上げて見ると、石は既にわきへ転がしてあった。石は非常に大きかったのである。【マルコ 16, 1~4】

教会において11月は死者の月と言われ、すべての死者のために祈ることが勧められています。ところが11月の下旬は、ちょうど待降節の初めと重なることとなり、何か不思議な気がします。でもそこには、深い意味もあるように感じます。実に、わたしたち人間にとって「死」は、すべてが終わってしまうかのような悲しい出来事です。しかし、救い主イエス・キリストの誕生と共に、新たな命への希望が与えられたわけですから、死はその命への過越であると言えるでしょう。

それは、イエス様の復活の時の出来事からも分かります。神様は、すべての人間の罪と死を表す閉ざされた暗い墓を、大きな石を転がして開き、イエス様を復活させられました。イエス様の復活によって、「罪から真の自由へ、死から永遠の命への入り口」を開いてくださったわけです。そのイエス様のお墓に向かっていた夫人たちは、「だれが墓の入り口からあの石を転がしてくれるでしょうか。」と話し合ったでしょう。非常に大きな石だっ

たので、自分たちだけではできないと思ったのです。しかし、お墓についてみると、その石はもうすでに転がされていました。それは、勿論、神様の御業だったでしょう。

神様は、人間にはまったく転がせない「罪の石、死の石」を、誰も知らないうちに転がしてくださいました。その開かれた罪と死のお墓から、イエス様は復活され、更に、天に昇られたでしょう。こうして、イエス様は、わたしたちも神様の国へ導かれることを示されたのです。それこそが、真の「過越」で、わたしたちは死を通して、神様の国へ過ぎ越して行くわけです。

わたしたちはその過越の神秘を毎週、毎日のミサ聖祭で記念しています。ミサに与り、主の食卓からご聖体をいただく度ごとに、わたしたちは自分の過越を前もって味わいます。そのご聖体は、わたしたちのためにご自分の脇腹を開いてくださった方の御体なのです。そのイエス様の開かれた御体は、まさに、わたしたちの罪と死の墓であり、わたしたちはイエス様の御体を通して、イエス様と共に死に、共に過ぎ越すのです。そういう意味で、死者の月は、復活と新しい命を待ち望む月でもあるわけです。世を去ったすべての人に、主の永遠の命が与えられるよう、また、わたしたちもその命への希望のうちに生きていくことができるよう、お祈りいたします。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求



2024年10月 (10月6日開催)

【検討事項】

1. 電話設備更新とネット環境整備
・電話設備更新を検討中です。ネット環境整備については簡単な調査(予算約3万円)だけを行い、実際に工事するか、やるとしたら何をやるかなどは今後検討します。
・電話設備更新とネット環境整備工事の費用を来年予算に組み入れる予定です。
2. 軽量テント購入
今あるテントは重くて張るのも片付けるのも大変なので、軽量テント(予算約10万円)を購入することにしました。10/27ふれあいバザーから使い始めます。
3. クリスマス行事の調整
待降節、降誕節のあいだに行われるイベントの日程調整を行いました。
4. 報告事項
・敬老の集い、中高生夏企画などの報告がありました。
・1階ロビーのウォーターサーバーは、夏季限定の設置予定でしたので、現在の水が無くなりしだい撤去します。

【各会報告】

1. 典礼委員会

- ・水の祝別 11/3(日)10時ミサの中で行います
- ・ベネディクション(聖体賛美式) 11/7(木)19時から行います

- ・年末年始のミサの時間
12/24(火)主の降誕(夜半のミサ) 19時
12/25(水)主の降誕(日中のミサ) 10時
12/29(日)聖家族(祝) 7時と10時
12/31(日)10時 夜半のミサは行いません
1/1(水)神の母聖マリア(祭) 10時
ベネディクションは1/2(木)ではなく、1/9(木)に行います

2. 教会学校

- ・9/23 横浜教区リーダー研修会に参加しました。テーマ「絵本を通して神様の愛を伝えよう」
- ・11月の教会学校は11/3、11/17です。
- ・11/17 ミサで七五三のお祝いをします。
- ・12月は教会学校を毎週行う予定です。
- ・12/8 ミサの前後に子供のための赦しの秘跡を行います。
- ・12/22 クリスマス聖劇を予定しています。

3. キリスト教講座

- ・11/30 13:30~16:30 待降節黙想会
講話: シスター小野恭世(イエズス孝女会)
- ・11月より「聖書の集い」(仮称)を開始します。開催日時: 毎月第二日曜日 9:00~9:45。新信徒を中心に実施し、集いの輪を広げて行きます。

4. 財務委員会

カリス現金盗難保険更新中止、中高生夏企画会計についての報告

5. 広報委員会

- ・縦読みポエムを募集しています。
- ・10月から献堂60周年のシリーズを開始しました。

6. 福祉委員会

来年、福祉講演会を予定しています。

7. 建物管理委員会

電話設備更新、ネット環境整備の状況を説明しました。

8. 共同墓地委員会

- ・上大岡共同墓地の合葬墓増設を計画しています。
- ・9/15、22、29（日）上大岡共同墓地の説明を行いました。
- ・9/27（金）共同墓地利用ご遺族様向け「秋の墓参ミサ・納骨式」案内葉書発送
- ・共同墓地使用状況（2024年9月29日時点）

	磯子	二俣川	港南	保土ヶ谷
埋葬	64	38	9	26
合葬	20	9	3	0
生前予約	27	43	6	48

9. ヨゼフ会

- ・9/8 定例会、9/14 月見会（懇親会）、9/29 コーヒー光実施
- ・10/11 定例会、10/13 コーヒー光予定

10. マリア会

- ・報告
- 10/3 マリア会運営委員会

9/15 敬老のお祝い

ボリビア支援グループ

9/8「のんびり日曜日」実施

ステラマリス帽子を編む会 9/20、9/26 活動

アンナ会 9/9、9/30 活動

・予定

ボリビア支援グループ 10/18 会議、10/20

「のんびり日曜日」実施

アンナ会 10/7、10/21 活動

ステラマリス帽子を編む会 10/18、10/24 活動

バザー準備 10/26、27

11. 青年会

9/29 定例会開催。今後、青年会としてやりたいことを話し合ったのち、バザーの子供企画(大きな塗り絵作り、韓国のお餅作り)について検討しました。

12. インターファミリー

- ・9/29 講演会の報告を10/8 10時ミサ後に行いました。
- ・10/27 ふれあいバザーの屋台出店に向けて準備中です。

13. 一粒会

- ・来年から一粒会献金を教会維持費の月定献金に統合するように準備を進めます。
- ・11/23 ザビエル祭) はバス利用の参加を計画します。

以上

縦読みポエム ①

皆さまからご寄稿いただいた縦読みポエム、シリーズでお届けすることにしました。ポエムの最初の言葉を縦に読んでみてください。寄稿募集の締め切りを延長しましたので、ぜひご寄稿ください。詳細は教会ロビーのポスターをご覧ください。

かんたんなことだよ
みみと目と心を澄ませて
さいわいを探そう
まことの幸いを

聖霊きて
いつもわたしの
靈性を高めて下さい
以後もよろしく

みんなの心をひとつにして
この教会を守ってゆこう
途切れることなく信仰の
バトンをつなぐ二俣川教会



皆で祈りましょう

11月は死者の月です。

亡くなられた人たちが神の国に迎え入れられ、
永遠の喜びを得ることができますように祈りましょう。

(この世を去った兄弟・姉妹、親族、恩人を思い……)



てん め ひと いの 天に召された人びとのための祈り

じんるい すく よろこ つみ かみ
人類の救いを喜び、罪びとをゆるされる神よ、
いつくしみをもってわたしたちの祈りを聞き入れてください。
この世を去ったわたしたちの兄弟姉妹、親族、恩人が、
せいぼ せいじん と つぎ たす
聖母マリアとすべての聖人の取り次ぎに助けられ、
お
終わることのないしあわせにあずかることができますように。
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

(「教会の祈り」－死者－ 結びの祈願 より)

ホッとトピックス

日本カトリック教会に嬉しいニュースが届きました。東京大司教区のタルシ
チオ菊地功大司教様が、来る12月8日の無原罪の聖マリアの祝日に枢機卿
に任命されます。日本人が枢機卿に任命されるのは2018年に選ばれたトマ
ス・アキノナス前田万葉枢機卿様に続き、7人目とのことです。



東京教区のホームページをのぞくと、大司教様ご本人がローマにて、枢機卿
に任命されることをお知りになった時のストーリーが微笑ましく書かれてい
ます。

QRコードをスマートフォンのカメラで読み込むと記事を読むことができます。→



- 略歴
- 1958年11月01日 岩手県宮古市に生まれる
 - 1986年03月15日 司祭叙階
 - 2004年05月14日 新潟教区司教に任命される
 - 2004年09月20日 司教叙階
 - 2017年10月25日 東京大司教に任命される
 - 2017年12月16日 着座



第2回 二俣川教会献堂 60 周年記念企画

—歴代教会委員長インタビューから、二俣川教会近代史を見る—

歴代教会委員長の方々数名からお答えをいただきましたので、下記のように纏めました。ご協力いただき、ありがとうございました。皆さん懐かしくお読みになって、二俣川教会の近代史を振り返ると同時に、これからの歩みに共に目を向けていければと願っています。回答者は A. N. さん、I. T. さん、O. Y. さん、K. A. さん、F. Y. さんです。
(以下解答欄では敬称略)

【質問1】 教会委員長を務めていらしたのはいつ頃でしたか？その時の大きな出来事は？

- ・ 教会委員長を務めていたのは李廷胤神父様の時で1度だけです。(O)
- ・ 小生が教会委員長を拝命していたのは2010年頃です。当時一番力を入れていたのは教区全体で活動していた「宣教司牧」です。多くの教会は一部のリーダーのみ参加している状態でした。これを信者の皆さんに如何に理解して頂き、どうすれば浸透するか、を考えていました。ミサ後のお知らせに何回か載せ、説明したり、『二十六聖人』報、等様々な機会を通じて「共同宣教司牧」についてのご理解をお願いしました。(F)
- ・ 2011～2012年と2023～2024年の二回です。2011年のときは委員長になりたてのFさんが新潟転勤になり、東日本大震災の直後の6月に急遽交代しました。1回目の出来事はジャック神父様と旭警察署に不審者立入りの相談に行ったこと、上大岡共同墓地の建設です。2回目はコロナ禍後のバザー再開です。(A)
- ・ 私は2019年～2022年の4年間、教会委員長を務めさせていただきました。4年間の内3年間はコロナ禍でミサの中止と再開を繰り返す時期でした。姜神父様の下、信徒が一丸となり感染予防に尽力しミサを再開し乗り切ることが出来たことは大きなお恵みです。(K)
- ・ ①2009年～2010年 近隣に墓地を持たない小教区に呼び掛け、4教会（保土ヶ谷、磯子、港南、二俣川）合同の納骨堂建設へ向けた活動を開始 ②2015年～2018年 50周年記念誌の発行／ペトロ 李 廷胤 神父様との別れ。笹氣神父様（主任司祭）主催のゴルフコンペと速すぎる帰天（2017年12月4日）(I)

【質問2】 何をいちばん大切にしながら教会委員長という重責を担っておられましたか？

- ・ それは覚えていませんが、教会事務所の運営について注力したことは記憶にあります。(O)
- ・ 一番大事だと思っていたのは信者の皆様が自ら進んで教会への奉仕、運営に関わろうとする気持ちの醸成です。教会委員会、地区連絡員等のなり手がなかなか見つからないというのは当時もそうですし、今もあまり変わりません。リクエストがあるなら「よし、やったるか」と言う声がいくつも拳がるという雰囲気になればいいなあと思っています。(F)
- ・ 一番大切なのは司牧です。教会委員会は神父様を支え、司牧を助けるためにあるからです。(A)

- ・霊的成長を願ってのミサ録画配信、ミサの中止と再開の案内、感染防止対策などを多くの方々に協力いただきました。大変な時期でしたがお互いに感謝の気持ちを素直に伝え合えた期間であったと思います。共に集いわかちあう事の大切さを痛感した期間でもあります。今は若い親子や多くの子ども達が共に集いミサを捧げている姿に光を感じます。主の平和のうちに、互いに愛し合う共同体としてあゆみ続ける事が出来ますように。

(K 質問②～④を纏めて)

- ・司祭とともに教会運営の「透明性」を高めること→教会委員会規約の大幅改定、教会組織の図式化、HPをはじめとする広報活動の強化など。信徒同士の「絆」を強めること→コミュニケーション機会を増やす（バザーをはじめ各種イベントの活性化など）(I)

【質問3】主任司祭や周りの信徒の方々にかけられて強く印象に残っている言葉は何ですか？

- ・李神父様に先日お会いした時に、前庭にマリア様の像を建てることになり、李神父様から弟が作る像はどうかと聞かれて、是非お願いします、というような話をしたことを思い出しました。(O)
- ・1回目も2回目も「なんで教会委員長なんて大変な仕事を引き受けたの」と聞かれました。神父様に「あなたがやりなさい」と言われたから、としか言えません。神様はほんとうに人使いが荒い。(A)
- ・笹氣神父の言葉：Simple is the best (I)

【質問4】60周年を迎える二俣川教会へ「ひとつこと」をお願いします。

- ・変容を尊び、試行錯誤を喜んで受け入れる。そんな二俣川教会であり続けて欲しいです。(A)
- ・献堂60年の歴史を振り返り、あらためて相互の絆を確認しましょう！(I)



シリーズ第3回は、来年1月号にて『意外と知らないコト』～二俣川教会の聖堂の様々なものを作った人～と題して記事を掲載予定です。お楽しみに！

世界難民移住移動者の日に講演会が開かれました！

9月29日（日）は「世界難民移住移動者の日」でした。国籍を超えて、真の信仰共同体を築き、全世界の人々と「ともに生きる」決意を新たにする日。10時の主日ミサは、コロナ禍以来久しぶりとなるインターファミリーミサで、ベトナム語、タガログ語、マレーシア語で共同祈願がなされ、外国語を交えた聖歌も歌われ、心ひとつに世界のために祈りを捧げました。この日にあたり、ミサ後聖堂にて、インターファミリーグループ主催でアルペなんみんセンター理事の有川憲治さんをお招きした講演会が行われました。講演後には、国際色豊かなお料理を囲んだ懇親会も開かれ、親睦を深めました。講演を聞いて、お寄せいただいた感想をご紹介します。

「アルペなんみんセンター」の名前は知っていました。黙想の家であった時に通っていた昔を思い出しつつ。今の目をみはるような発展（今必要な！！）をとげていることが嬉しかったです。本当にご講演すばしかったです。

「イエス様も難民でした」という言葉にハッとさせられました。この世にある時「一緒に食べ、笑い、悲しみ、祝い」した弟子や民とのイエス様の姿が浮かび、これが難民の方との付き合い方のお手本だと思いました。

日本における難民の実態について曖昧な知識しか持ち合わせずにいたので、講演を拝聴したことで理解を深めることは出来た一方で、迫害、恐怖、差別から逃れてきた難民保護が民間NPOに多様な部分を委ねられている現実を知り権限のないNPO法人活動の限界を示していると感じた次第です。難民の方々を救う第一線の現場である入管（国家）は、その役割を果たしているとは考えにくい。難しい問題だが、行政の仕組みの見直しと予算化、迅速な対応が可能な人材の育成などが求められる。遠くない将来、東アジアにおいて紛争が起きたらどう対処するのだろうか。



←講師の有川さん



ありがとうございました。難民の件については殆ど情報がなくカトリック新聞で知るだけでした。今日少し理解し知ることが出来ました。

まったく私とは関係ないこと、どうにもできないこととと思っていましたが、関心をもつこと、それが私がこれからすぐできることと思いました。ありがとうございました。

まず身近な方から現状を教えて頂けたことがよかったです。耳を傾けることが大事です。インターファミリーの方々、有川さんに感謝します。私の第一歩です。かわりをもつということが大切だと感じました。

これからの日本社会は難民・移民を受け入れていかないと成り立たない。彼らと仲良く共栄してゆく社会をめざす為にも、学校で教えてゆく必要があると思う。教会に来る様々な国籍の人々にも積極的に声をかけ耳を傾け仲良くしてゆこう。

難民支援活動の内容が理解でき、今出来ること、求められている事に対して考えさせられました。引き続き今回の様な講演、活動に期待しています。ありがとうございました。

日本での難民認定率1%にびっくり。国民全員で訴えなければ。日本国どうかしてほしい。なんみんセンターが多くの方を受け入れて、日本人も難民も助け合って生活できる社会になってほしいと思いました。

難民について、小さな人々について、わかりやすくお話がきけたことよかったです。私に何ができるのだろうか?!と問いかけられていると思います。協力できることをしていかなければ!

おいしくいただきました。あと始末が大変なことと思います。ごちそうさまでした。

様々な活動を知ることができよかったです。質問からの答えで青年会 BBQ とか次世代へのバトンのアイディアもよかったです。何もできないではなく、日常のたのしいことの中にも難民の方々へ支援とつながることも分かりました。ありがとうございました。



【主催したインターファミリーグループより】

講演会、懇親会に参加していただきありがとうございました。インターファミリーグループは日本にいる、外国にルーツのある方々に寄り添い、そして一緒に楽しんでいければと思って活動しています。難民の問題もまず関心を持つことから。今後もアルペなんみんセンターの方々と、関わって交わっていければと思っています。

CHRISTMAS クリスマスバザー BAZAAR

『行って、あなたも同じようにしなさい』ルカ 10.37

12月1日(日) 11時～14時

チャリティーショップ(献品&古着)、手芸品販売、修道会物品販売、子ども企画、福祉団体販売、あったか食事販売、etc…

献品・古着のご寄付をお願いします！



久しぶりの献品・古着販売の準備が始まりました。専用のタグをお配りしますので、ご自宅にある献品や古着を厳選していただき、品名と値段とコメントを書いたタグを付け、ご寄付いただけましたら幸いです。詳しくは教会ロビーのポスターをご覧ください。

バザー準備委員会

二俣川教会 ニュース

- 10月27日(日) ふれあいバザー「行って、あなたも同じようにしなさい」ルカ 10.37 が開かれました。今回は美味しく多彩な食べ物を味わうことのできるフード企画、聖具や祭服を間近で見られたり、十字架の道行をあらためて見学したり、献金寄付先の紹介を見られる聖堂企画、韓国のお餅(ソンプヨン)作り体験や大きな絵をみんなで作ったりする子ども企画の3本立てでした。詳細は次号で報告いたします。

12月1日(日)には、チャリティーショップ(献品&古着)とクリスマスに特化した企画を行います。皆さんどうぞお楽しみに！そして、ご協力をお願いいたします。



- 11月23日(土・祝)に東京にある日本カトリック神学院で「ザビエル祭」が行われます。一粒会が準備したバスツアーの申し込みは締め切られましたが、もちろん個人的に参加することはできますし、下記のURL、QRコードからザビエル祭への招待動画を見ることができます。

https://youtu.be/Na_0iJxLaQ8?feature=shared



来場の際は公共交通機関をご利用ください。当日、現地にお越しになれない方も、期間限定の youtube 配信で講演会などの様子が配信されます。どうぞご覧ください。

【11月・12月の予定】

- ・11月3日 教会学校
- ・11月10日 侍者会
- ・11月17日 教会学校 七五三祝い
- ・12月1日 教会学校 教会バザー(クリスマスのかざりを作ります！みんな参加してください！！)
- ・12月8日 教会学校 ゆるしの秘跡
- ・12月15日 教会学校
- ・12月22日 教会学校 聖劇(10時ミサ)



【お知らせ】

- ・七五三のお祝いの申込書は、ロビーにあります。申込の締め切りは、11月3日です。
- ・12月の教会学校は、聖劇の練習などもありますので、1日から22日まで毎週行います。

10月はロザリオの月

10月の教会学校は、幼児クラスも小中高クラスもロザリオをテーマに行いました。

【幼児クラス】

ロザリオはマリアさまにおいのりの花をおさげするものです。お家の方といっしょにプリントのロザリオに色ぬりを楽しみました。



【小中高クラス】

ロザリオのおいのりについて、そして、4つの神秘(「よろこびのできごと」「光のなかで」「苦しみのできごと」「すばらしいできごと」)を心にとめながらおいのりすることもプリントを使ってお話を聞きました。

その後、お聖堂のマリア像と前庭のマリア像の前で、ロザリオを1連唱えました。みんなで考えて、“世界みんながなかよく暮らせるように”と世界の平和を願っておいのりをささげました。



マリア会会員のお母さま（カトリック浦上教会の信徒）直伝のレシピです。
優しい母の味の料理で美味しくいただきましたので、皆さまに紹介させていただきます。
たくさん作って、常備菜としてもお勧めです。

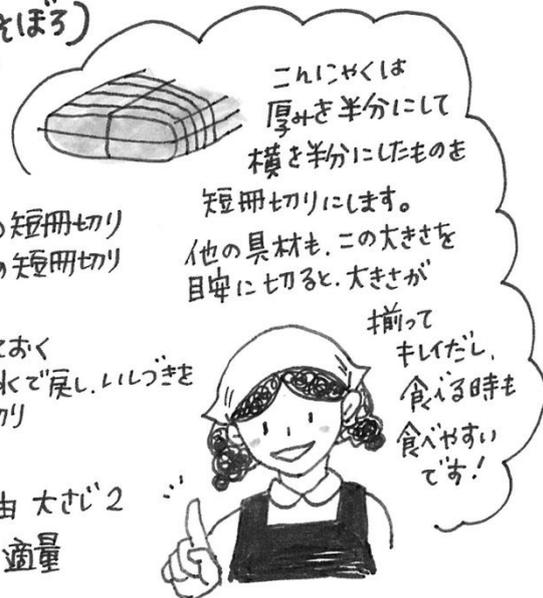
浦上そばろ (長崎そばろ)

★ 材料 (5人分)

- | | |
|----------|--------------------|
| 豚肉 (こま肉) | 250g |
| ごぼう | 1/2本 さいがき |
| 人参 | 1/2本 約3cmの短冊切り |
| 筍(水煮) | 150g 約3cmの短冊切り |
| こんにゃく | 1枚 250g |
| もやし | 1袋 水洗いしておく |
| 干し椎茸 | 3枚 {150ccの水で戻し、しじみ |
| かつま揚げ | 2枚 {とって細切り |
| | {短冊切り |

★ 調味料

- 椎茸の戻し汁 150cc
- 薄口醤油 大さじ2
- 酒 大さじ1/2
- だし素 適量
- 砂糖 大さじ1
- みりん 大さじ1
- サラダ油 (火かけ用) 適量



《作り方》

1. Aの野菜をそれぞれ水で茹でておぼろしておく。
2. 深めの鍋にサラダ油を入れ、豚肉を火かけする。
3. 豚肉の色が変わったら、もやし以外のものを加え、一緒に火かけする。
4. 最後にもやしを入れる。
5. 調味料を加え、上下返ししながら、15分位煮る。

浦上そばろ (長崎そばろ)

長崎県浦上地区が発祥の郷土料理。1500年後半、浦上地区でキリスト教を布教していたポルトガル人宣教師が、当時肉を食べる習慣がなかった信徒たちに「健康にいい食べ物」として豚肉を食べさせようと作られたのがはじまりといわれる。その後、信徒らは豚肉の量を少なくし、野菜をたっぷり入れて作るようになったため、それが基本レシピとして確立、いまに伝わったといわれている。名前の由来としては、ポルトガル語で“ソプラード (余り物)”からきたという説や、素材を粗く切ることを表す、“粗おぼろ”からきたという説がある。(農林水産省 うちの郷土料理の歴史より引用)

マリア会 H. I.

「編集後記」

元教会委員長の言葉が響きました。自ら進んで教会の奉仕、運営に関わると言う気持ちは、
姜神父様のご指導のもとに歩む私たちの今の教会に繋がっています。これからも大切にし
ていきたいと思えます。

(S. O. 記)